第８５号
2022年　8月1日
発行

同推くん

発行・編集
海蔵地区人権・同和
教育推進協議会広報部
事務局地区市民センター内
電話　３３３－８７７０

2022年度の事業活動について

海蔵地区住民の皆様には平素より海蔵地区人権・同和教育推進協議会の活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。6月6日に総会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染防止のため本年度も総会を中止し、書面による決議を実施しました。その結果本年度の案件はすべて承認されましたのでご報告申し上げます。本年度もどうかよろしくお願い申し上げます。

本年度の主な活動を紹介します。

【１】地区懇談会

本年度は新型コロナウイルス感染状況を見ながら、開催することといたしました。「障害者差別と人権」をテーマに、野田･清水ブロック、末永･本郷ブロック、西阿倉川ブロックで実施します。2016（平成28）年に施行された「障害者差別解消法」について、ドラマ「風の匂い」を鑑賞し、みなさんと一緒に考えたいと思います。是非ご参加下さい。（なお「同推くん85号（本号）」発行時には野田･清水ブロックは終了しております。）

【２】第29回人権を考える集い

10月1日(土)に開催します。「今までの生き方、自分を見つめ直す」をテーマに海蔵小学校をお借りして映画「お終活　熟春！人生、百年の過ごし方」の上映を予定しております。

【３】機関紙「同推くん」の発行

同推くんの発行は本年度も3回、4月、8月、12月発行します。本年度は「水平社宣言」を特集します。

【コーダCODAをご存じですか】

NHK・BSで「しずかちゃんとパパ」というドラマが放映されました。もう終わってしまったのですが、再放送も考えられますので、その時はぜひご覧下さい。舞台は父一人娘一人の父子家庭。父は生まれながらに耳が聞こえないろう者。父の耳代わり口代わりを務めてきた娘が、ひょんなことから出会った男と恋に落ち、結婚するまでの親離れ子離れのてんまつを明るく温かく描くホームコメディです。一人娘を吉岡里帆、その父を笑福亭鶴瓶が演じます。エンディング曲「You are so beautiful／上田正樹も最高でした。このドラマで私が初めて知った言葉が「コーダ」です。コーダとはChildren of Deaf Adultsの頭文字をとった言葉で、「両親のひとり以上が聴覚障害を持つ、聴こえる人」。つまり、ろう者のもとで育った聴こえる子どもたちのことです。コーダは親とは手話で話します。学校にあがったとき、手話が通じないことにショックを受け、相手に手を動かし、メリハリのある表情で話す事が普通でないことを知りショックを受けます。でも鶴瓶演じるろう者も、吉岡演じるコーダも不自由とは縁遠い生活を送っています。不自由にさせているのは思い込みで行動してしまう私たちではないかと気づかせてくれます。再放送が待ち望まれます。

アカデミー賞作品「コーダ　あいのうた」も話題になりました。まだ観ていないのでこちらも機会があれば是非観たいと思います。

（F）

水平社宣言にはどんなことが書かれているの？（Ⅱ）

前回の段で水平社宣言の一番大事な部分「人間は勦（いた）はるべきものでなく尊敬すべきものだ」というくだりがあります。いままで部落の人たちは気の毒でかわいそうだとして、いろんな施策が部落外からもたらされてきました。放っておくわけにはいかないから手を差し伸べてやろうというのが、水平社ができるまでの部落に対する施策の本質でした。部落の人たちを対等な存在として見ていなかったということが大きな問題です。いわゆる上から目線で部落問題を解決しようして行われてきた施策では絶対に部落問題は解決しないということで、水平社がうまれてきたのです。つづいて「この際吾等の中より人間を尊敬することによって自ら解放せんとする者の集団運動を起こせるは、むしろ必然である」というくだりです。部落民一人ひとりも無限の可能性を持った存在だが、部落差別という不当な壁によってそれが発揮できなくされている。その壁は一人では取り除けないから、まず部落民自身が団結して立ち上がる必要があるということです。

前回に続き水平社宣言を読みながら一緒に考えてみましょう。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の惡夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあうたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が來たのだ。

「陋劣（ろうれつ）なる階級政策の犠牲者」

「陋劣」というのは「いやしく劣っていること。下劣」、大阪弁で言えば「えげつない」と言う意味です。身分差別の社会的存在意義は、その本質からいって、封建社会でも、資本主義社会でも変わっていない。それは部落民を直接に搾取し、圧迫することだけが目的ではなく、封建社会における身分差別は、経済的には、その時代の主要な生産力の担い手であった農民の搾取と圧迫をほしいままにすることと、政治的にはその反抗をおさえるための安全弁として利用された。「階級政策の犠牲者」というのは、政治的には分裂支配の道具、つまり「上見て暮らすな、下見て暮らせ」の対象として部落民に労働市場の底辺を支えさせ、一般勤労者の低賃金、低生活の鎮めの手段とされてきたということです。

「産業的殉教者」

部落が担ってきた典型的な産業は皮革産業と食肉産業です。私たちはご飯を食べるとき「いただきます」と言います。これは他の生き物の命をいただくから「いただきます」と言う。人間は他の生き物の命をいただかないと生きていけない。そういう感謝の気持ちが「いただきます」の言葉にこめられているのです。しかし、世間の人たちは、食肉業で働く人たちを差別する。日本社会で育った多くの人びとは、親や学校、地域社会から「生き物を殺すことを忌み嫌う意識」（殺生戒）や「血や死にふれることをいやがる意識」（穢れ意識）を植えつけられ、屠場のことを知れば差別してしまうような素地を、本音のところでは身につけているのだと思います。しかしひどい差別を浴びせられても、働いている人は誇りと自信を持って仕事をしているということです。

「人間が神にかわろうとする時代にあうたのだ」

フォイエルバッハ（ドイツ哲学者）という人は、神の中にあがめていたものを人間に取り戻した人です。それを一言で言ったのが、「人間が神にかわろうとする時代にあうたのだ」という言葉です。いままで神をあがめて、神のもとに人間はひれ伏していたけれども、実は人間そのものの理想が神の中にあるのだから、自分たち自身が無限の可能性を持っているんだということです。

ここまでを現代語訳してみましょう（奈良県立教育研究所・水平社宣言の内容子ども版より）

私たちの祖先は、自由と平等を心の底から願い、それを実現しようと取り組んできました。身分のしくみに苦しみ、差別を受けながらも、たくましく生きてきました。どんなに苦しい時でも、私たちの祖先は人間としての誇りを失うことなく生きぬいてきました。

そうです。私たちは、この祖先の誇りある生き方を受けついで、今、差別のない社会を築いていこうとする時代に生きているのです。私たちの力で差別をなくす時代が来たのです。

ここまで公益社団法人すみりんニュースNo.14（2012年6月18日発行　講師:公益財団法人住吉隣保事業推進協会理事長　友永健三さん）からそのほとんどを引用しました。

水平社宣言については多くの文献や、図書があります。興味のある人は図書館でどれか一冊手にとってみては如何でしょうか。

（2016年同推くん64号~68号で特集した「シリーズで学ぶ水平社運動とは」および「公財すみりんニュースNo.14」から引用しました。同推くんは海蔵地区ホームページでご覧になれます。）

第86号（12月1日発行）につづく（Ｆ）

身体障害者補助犬法

お店や病院など不特定多数の人が利用する施設で障害のある人のパートナーである盲導犬、介助犬、聴導犬（総称して、「身体障害者補助犬」）の同伴受け入れを義務づける法律、身体障害者補助犬法(以下「補助犬法」)が成立して5月29日で20年になるという記事を見て、この法律を初めて知りました。また、もっと前からあるもと思ったのですが20年しか、経っていないのだと思い、この法律がどのようなものか、この法律が出来てどうかわったか、調べてみました。

以下、公益財団法人日本盲導犬協会のホームページより抜粋

「身体障害者補助犬法成立（2002年）から20年がたった今、補助犬に対する社会の理解は進んだのか？その実態を把握するために、公益財団法人日本盲導犬協会（井上幸彦理事長）は、盲導犬ユーザーから相談が寄せられた盲導犬同伴による受け入れ拒否への対応事例を毎年集計、公開しています。2021年度の集計では、昨年に続きコロナ禍で外出機会が減る中、解決が難しく協会が対応した事例が37件ありました。その中で最多となったのは医療機関での受け入れ拒否で、コロナ禍での衛生意識の高まりが、盲導犬同伴での施設利用を妨げる要因の一つになっていることがわかってきました。

拒否の原因では、「法律を知らない」とする事業者が多数いて、成立から20年を経ても未だ補助犬法が周知されていない現状が明らかになりました。こうした実態を多くの方へ伝えることにより、誰もが暮らしやすい社会へ向け、盲導犬や視覚障害に対するより一層の理解と法の周知を訴えたいと考えます。」とありました。

やはり、私と同じように事業者も法律を知らないという方が多いのだと分かりました。

みなさまも、この記事をきっかけに補助犬法について知っていただけたらとおもいます。　（Ｓ）

同推くんコラム

読書の部屋　　第３回

今回御紹介するのは、小説ではなく唄です。
沖縄出身のグループ　BERIN（ビギン）の島人ぬ宝（しまんちゅうたから）です。
２００２年に発表されているので、ご存知の方も多いと思います。
何故、今この唄かと云うと今年は沖縄が日本に復帰して５０年という節目の年です。
１９４５年に戦争が終わっても１９７２年まで実に２２年間も米国統治下にあった沖縄です。
復帰後３０年後にこんな素晴らしい唄が生まれてきました。
戦争は最大の人権侵害だと思います。２０２２年の現在でも世界中で内戦や戦争が絶えません。
人類が滅亡するまで戦争はなくならないのでしょうか？？

島人ぬ宝

僕が生まれたこの島の空を僕はどれくらい
知っているんだろう
輝く星も流れる雲も名前を聞かれても
わからない
でも誰より誰よりも知っている悲しい時も
嬉しい時も
何度も見上げていたこの空を
教科書に書いてある事だけじゃわからない
大切な物がきっとここにあるはずさ
それが島人ぬ宝

僕が生まれたこの島の唄を僕はどれくらい
知っているんだろう
トウバラーマもデンサー節も言葉の意味さえ
わからない
でも誰より誰よりも知っている祝いの夜も
祭りの朝も
何処からか聞えてくるこの唄を
いつの日かこの島を離れてくその日まで
大切な物をきっと深く知っていたい
それが島人ぬ宝

僕が生まれたこの島の海を僕はどれくらい
知っているんだろう
汚れてくサンゴも減って行く魚もどうしたら
いいのかわからない
でも誰より誰よりも知っている砂にまみれ
て波にゆられて
少しずつ変わってゆくこの海を
テレビでは映せないラジオでも流せない
大切な物がきっとここにあるはずさ
それが島人ぬ宝

BEGIN
１９８８年沖縄県石垣島出身の
比嘉栄昇、島袋優、上地等の
３人で結成された
アコースティックバンド

（O）

海蔵地区の皆さまへ

２０２２年度　地区懇談会のお知らせ

小紙が届く頃には、野田・清水ブロックの地区懇談会が終わっていると思いますが、３年ぶりに地区懇談会を行うことが出来そうです。

２０２２年度の地区懇談会の内容は、平成２８年４月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されました。

この法律は「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。

今回の地区懇談会では、その法律が意図するものをドラマを通して具体的に学んでみたいと計画しました。

お気軽に、お近くの会場へ足を運んでいただきますよう、お待ちしております。

下記の日時・場所で開催します。

・７月１５日（金）19時～21時	野田公会所	野田・清水ブロック自治会
・８月１９日（金）19時～21時	海蔵南公会所	末永・本郷ブロック自治会
・９月１６日（金）19時～21時	西阿倉川公会所	西阿倉川ブロック自治会

◎同推くんのバックナンバーは、『かいぞう地区』のホームページからご覧いただけます。
http://www.kaizotiku.org/